

梅蕾む

山田真砂年

昼月の剥がれさうなり虎落笛
石二つ重ねて佛冬わらび
仏足石に誰そ置きたる紅葉枯れ
古墳より寒林越しの海の蒼
除夜の鐘湯船に浮いてをりにけり
履き慣れし靴で出かけり除夜詣
晦日蕎麦十大ニュース我になし
枯芝に生け贄のごと転がれり
屋上にリース鳩飼ひ冬日和
裸木や鳩も鴉もシルエツト
松とれて市民課ばかり混んでゐる
酒酌むによき頃あひや春の雨
アルプスの見ゆる街なり雪降る街
嶺嶺は雪の磐座晴れわたる
スケートの靴紐イライラと解く
三千風もはせをも春を歩きけり
しづかさや光の粒に梅蕾む

高橋睦郎氏名誉市民賞贈呈式

杖ついて詩人來たれり雪催い
恋猫の闇をひきづり戻りきし
下萌えの密なるところ地の柔らか
忘れ物取りに戻れり冴返る
泡ひとつ浮き上がりたり春めける
轉りに重なるやうに轉れり
公魚のはらはら釣られ静かなる
春の雲まぶしくひとつちぎれたり